

労災死亡事故が4件発生しています。

☆死傷災害は道路貨物運送業・陸上貨物取扱業とも増加しています。



用語の説明は支部
ホームページ参照!

神奈川県労働局の集計によると、令和6年10月末(1月1日から10月31日)における県内の陸運業の労働災害発生は令和5年同期と比較し次のとおりとなっています。

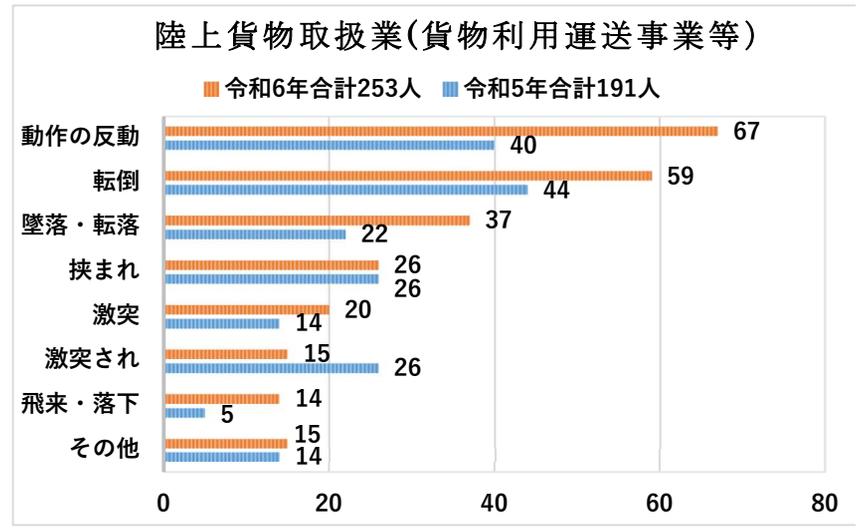
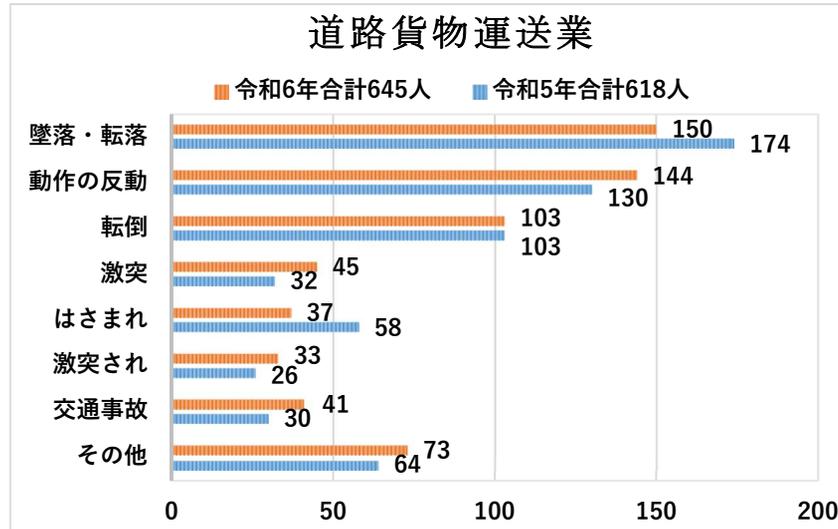
- ◇ 死亡災害は 道路貨物運送業で4件発生しています。
(前年同期は道路貨物運送業で5件、陸上貨物取扱業で0件の発生)
- ◇ 死傷災害は 道路貨物運送業では27名(4.4%)増加。(618名→645名)
陸上貨物取扱業では62名(32.5%)増加。(191名→253名)

死傷災害とは、死亡災害と4日以上休業災害を合計したものです。

1. 概況 (神奈川県内) 道路貨物運送業・・・(事故の型別で多い方(交通事故は右欄)から6項目+交通事故+その他)

事故の型	墜落・転落	動作の反動 (腰痛等)	転倒	激突	はさまれ・ 巻き込まれ	激突され	交通事故	その他	合計
発生件数	150	144	122	45	37	33	41	72	645
対前年増減	-24	+14	+19	+13	-21	+7	+11	+8	+27
同上増減率	-13.8%	10.8%	+18.4%	+40.6%	-36.2%	+26.9%	+36.7%	+12.5%	+4.4%

2. 各業種の概要



- ☆1 昨年同期に比べ4.4%(27名)増加して645名になっている。
- ☆2 墜落・転落災害は13.8%(24名)減少しているものの、事故の型別では最も多い状況に変化はなく、貨物自動車の荷台からの墜落・転落防止対策が重要である。
- ☆3 転倒災害は、事故の型別では3番目に多く、18.4%(19名)増加している。

- ※1 昨年同期に比べ32.5%(62名)増加している。
- ※2 動作の反動は事故の型別では最も多く、昨年も多かった上、さらに昨年同期と比較して67.5%(27名)増加しており、腰痛予防対策は道路貨物運送業と同様な取組が必要である。
- ※3 転倒災害は事故の型別では2番目に多く34.1%(15名)増加している。

3. 死亡災害発生概要 (陸上貨物運送事業関係 4件全てが道路貨物運送業での災害となっています。) 陸災防神奈川県支部収集

番号	発生地	月 時刻	事業の種別 労働者数 職種	起 因 物 事故の型	発 生 概 要
1	久喜市	2月 9時頃	道路貨物 運送業 10~29名 運転者	荷姿の物 飛来・落下	荷主の工場内で、トラック荷台に型枠用鋼板の束を荷主構内のフォークリフト運転者がフォークリフトで積み込んでいたところ、積み込んだ荷の最上段3段目の束が落下し、積み込み反対側の荷台上で荷締め中のトラック運転者に当たって、トラック運転者は荷とともに地上に落下し、荷の下敷きになって死亡した。
2	大和市	3月 3時頃	道路貨物 運送業 30~40名 運転者	トラック 交通事故 (道路)	国道の側道で、路肩に停車中の大型トレーラーに、後ろから走ってきたトラックが追突した。後ろから追突したトラックの運転者が死亡した。
3	八王子	7月 20時頃	道路貨物 運送業 10~29名 運転者	トラック 交通事故 (道路)	中央道走行中、渋滞により車列の最後尾に停車したところ、後方から大型トラックに追突され、停車していた前方のトラックに玉突きで追突した。
4	横浜市	8月 10時頃	道路貨物 運送業 10~29名 運転者	クレーン 飛来・落下	陸揚げされたコンテナをトレーラーで受け取るため、コンテナレーンの横で停車待機していたところ、タイヤ式橋形クレーンの吊り上げ装置がコンテナと接触、コンテナが横倒しになり、その隣のコンテナを押し出し、被災者が搭乗していたトレーラーの運転席に落下した。